

地域ふるさとに生きる新庄っ子

美浜町新庄小学校



1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	2回
中学校区を単位とした協議会	1回
地域及び家庭への学校公開	16回(のべ) 16日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	7人
授業ボランティア(含:低ボラ)	4人
登下校支援ボランティア	18人
その他()	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

新庄小学校は、1地区1校の地域に密着した学校です。中山間地に位置しており、広大な山林や清流に囲まれた自然あふれる環境にあります。子どもたちの実施したアンケート結果から、近年は過疎化や鳥獣害による耕作放棄地の増加、山林の荒廃、伝統行事存続の危機などの問題が明らかになりました。そこで、「自分達が地域のためにできることはないだろうか」という問題意識をもち、新庄を盛り上げる子ども会社「山の子ふれあい振興社」を平成22年に設立しました。今年度は、休耕田でのお米の無農薬栽培の研究に取り組んだり、京都市内での新庄のPR活動を行いました。この活動をとおして、子ども達に課題を解決する力、関わり合う力、生活を見つめる力をつけたりすることをねらいとし、ふるさと学習に取り組んでいます。

① 安心安全・美米新米づくり

地域のわいわい楽舎の方の指導をいただきながら、種もみの消毒、種まき、田おこしをしました。今年は、「できる作業は、自分達で」を合い言葉に取り組みました。田おこしは昨年なかった作業でした。約一アールの田をみんなで丁寧におこしました。その後、苗作り、田植え、除草、水管理、稲刈り、はさがけ、脱穀、精米まで一連の活動を学習しました。田植えや稲刈りの時には、地域のおじいちゃんやおばあちゃんのご協力をいただき、田んぼ一枚をすべて手で植え、刈ることができました。同じ品種でも、無農薬栽培、減農薬栽培と普通の栽培とでは販売価格が大きく違うことから、安心安全を求めるお客さんの存在を知り、害虫や雑草対策、収穫量の減収などについても学習しながら無農薬栽培に挑戦しました。この無農薬栽培の研究は、県小中学生科学アカデミー賞に入賞しました。収穫した無農薬米は、東日本大震災でお米作りができなくなった福島県の長沼東小学校に送り新たな交流が始まりました。

② 新庄のPR活動

秋には京都市内の町家で、山の子米(無農薬米)を販売し、美浜町と新庄のPR活動を行いました。地域で活躍している方の指導を受けて、しめ縄教室、木工教室、特産品販売、抽選会、新庄クイズ大会、新庄観光案内などの準備をし、当日は多くのお客さんに来ていただきました。子どもたちは、初対面の人に話しかけたり、商品や新庄の説明したり貴重な体験をしました。



成果と課題

様々なメディアなどで、子どもたちの活動が取りあげられ、「積極的に地域を巻き込んだ取り組みもあり、地域住民の意識高揚につながっている」との意見も出された。また、地域・学校協議会があることで、それぞれの立場で子どもの教育活動に関わり、地域全体で子どもたちを育てていこうという意見も出された。

